CDP資

「働き方改革」を「あり方改革」へ

〈ロワーマネジメント育成〉



効果を高める アクティブ・リスニング

感じる、考える、行なう、楽しむ

アクティブ・リスニング

❖ アクティブ・リスニングは、

コミュニケーション技法の一つ

"積極的傾聴"と日本語訳されている

- ◆ 「ヒアリング」と「リスニング」の違い
 - ヒアリングとは、耳に入ってくる(自然に聞こえる)こと
 - リスニングとは、注意(意識)して聴こうとすること

❖ 従来のコミュニケーション

- 会話すること(雑談含む)、が主流
- 組織内では、情報伝達(発信)を目的とする手段
- 〔辞書〕人が互いに意志や感情、思考を伝達し合うこと
- ✓ つまり、一方通行。相手が理解、承認しなくても成立する



上司「昨日頼んだよね。なんでやってないの?」 部下(え、明日までって・・・・)

上司「今日までに仕上げてって、メールしたでしょ」 部下(メ〜ル!? 見てねぇよ)

上司「あれこれ教えないとできないのかね、君は」 部下(た、大して教わってないけど。もういやだ!)

- ❖ 21世紀のコミュニケーション
 - ◆ 対話すること(ダイアログ)が、重要となる
 - 共有・共感・同意・約束・帰属意識のための対話が主流となる
 - 組織・社会で、影響をもたらす手段となる
 - 探求し続ける会話形式。思考と感情の相互理解の会話。
 - 新たな場を創るための土台(ベース)を築くもの
 - ✓ つまり、双方向。互いに理解、成果を出すことで成立する

❖ コミュニケーション

会話の "キャッチボール" と 言われていた



❖ ダイアログ

対話は "バッテリー(投手と捕手)" の関係と言える





- ❖ 対話する際に、参考になるデータ
 - ◆ 五感による知覚の割合(by.産業教育機器システム便覧)
 - 視覚83.0%、聴覚11.0%、臭覚3.5%、触覚1.5%、味覚1.0%
 - ◆ 五感の情報能力(by.屋内照明のガイド)
 - 視覚87.0%、聴覚7.0%、嗅覚3.5%、触覚1.5%、味覚1.0%
 - ◆ 約8割の視覚情報優位論(by.感覚生理学内のZimmermannの論文)
 - ◆ メラビアンの法則 (by.心理学者アルバート・メラビアン)
 - 表情・しぐさ 55.0%、声のトーン・口調 38.0%、言語 7.0%
 - ◆ 大脳皮質の半分以上が、視覚情報処理に関与(サルの実験段階)
 - ◆ APA心理学大辞典による
 - 「視覚優位/聴覚や他の刺激が同時に呈示されているときでも、視覚刺激が優先されて 気づくようになる傾向」

◆ つまり、

視覚情報と他感覚情報にアンバランスがあると、視覚による 刺激が脳内で優位に影響する、傾向が強い

◆ 発信者の時

(例)不機嫌な態度・表情での朝の挨拶は、相手の脳内で視覚情報による 感覚性感情(不快感・恐れなど)を高め、後の行動を抑制させる

◆ 受信者の時

(例)相手が不機嫌な態度・表情で朝の挨拶してきた時、視覚情報によってイメージされた認知性感情により、後の行動が選択される

※注意:セクハラなどによる触覚情報、スメハラなどによる嗅覚情報が極度に高い場合は、視覚情報や 聴覚情報より影響が強まる

❖ マネージメント職が必要な対話力(ダイアログ)

言語力(バーバル)

非言語力(ノンバーバル)

発信力

話力・声力・語彙力・論理力・ 文章力・構成力・提案力・例題力・ 表現力・説得力・伝達力・選択力・ プレゼン能力・PR力・知識力・ ユーモアカ・・・・ 自信・元気・情熱・誠意・清潔・ 清楚・笑顔力・目力・表情力・ ジェスチャー・しぐさ・姿勢・ 歩き方・食べ方・イラスト、図、表、 音楽、映像などによる見せ方・・・・

受信力

理解力・整理力・分析力・傾聴力・ 質問力・インタビュー力・語彙力・ 目利き力・気づき力・察知力・ 知力・記憶力・共感力・応対力・ 受容力・集中力・忍耐力・・・ 観察力・洞察力・注意力・推測力・ 問題発見力・解決力・状況判断力・ 聞く姿勢・しぐさ・うなづき・ 表情・目・笑顔・ポジション・ 場作り・機転・記録・対応・・・

「人間力」を高める力

ダイアログのための アクティブ・リスニング

アクティブ・リスニングとは?

❖ アクティブ・リスニングの目的は、

相手(話し手)が、

満足または納得した

答えを見つけ出す

手助けをすること、です

※答えを与える、説得する、ことではありません

